

国語 第2学年 ていねいに かんさつして、きろくしよう 検討会の想定問答

指摘 1：この教材で身に付ける力は何か。

返し：観察の観点を決め、実際に確かめたことを文章の材料にする。B(1)アに関わる学習として、観察の事実と感想を分けた記録文で言葉の扱いを確かめる。

指摘 2：学習できたと判断する根拠は何か。

返し：評価では、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしているかを、観察の事実と感想を分けた記録文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

指摘 3：活動だけで終わらせないために何を残すか。

返し：観察の事実と感想を分けた記録文を残す。完成後の見た目だけでなく、どの言葉を選んだか、その理由を本人の説明と照合する。

指摘 4：つまずきにはどう対応するか。

返し：感想だけを書く、見ていない特徴を図鑑から写して観察結果とする。その場合は、実物をもう一度見られる時間を設ける。比べる基準は実物で確かめ、測定していない数値を補わない。

指摘 5：本時の問いはどのように働くか。

返し：「その様子を見ていない人に伝えるには、何を詳しく確かめますか」に一度答えてから活動に入り、確かめた後に答えを比べる。教師の予定した文と一致するかではなく、言葉と理由の対応で判断する。

指摘 6：友達と違う考えはどう扱うか。

返し：読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。友達と同じ表現に直すことを目的にせず、伝わったことと確かめる必要があることを区別する。

指摘 7：態度の評価は参加の様子で決めるのか。

返し：参加回数や声の大きさだけで決めない。学習の見通しをもち、困った箇所を確かめて方法を試した記録から、粘り強さと自分の学習の調整を捉える。

指摘 8：端末や特別な道具がなくても進められるか。

返し：観察の事実と感想を分けた記録文は紙・板書・口述の記録で扱える。端末がある場合は見直し前後を保存して比べる。道具の操作の上手さを国語の評価と混同しない。

指摘 9：配当時間を変更する時は何を確かめるか。

返し：全10時間は光村図書の公式年間指導計画に基づく。本案の各時の配分は授業案であり、学校の年間計画に合わせて組み替える際も、目標と評価を確認する活動を残す。

指摘 10：教科書本文を配布物に載せていない理由は何か。

返し：児童と教師は使用中の教科書を手元で参照する。本案には独自の問い、活動の手順、記録の観点を示し、本文や台詞、挿絵、教科書の問題文を複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

